

平成22年度 学校自己評価報告書

1. 学校教育目標

『己に克つ』という強い意志を持ち、粘り強く最後までやり抜く

2. めざす生徒の姿

- ①自ら気づき、考え、進んで学ぶ人になろう
- ②豊かな心を養い、思いやりのある人になろう
- ③心身ともに健全な、逞しい人になろう
- ④戸隠に深くかかわり、戸隠を愛する人になろう

3. 学校経営の方針

- 生きる力を身につけた戸隠を愛する子どもの育成をめざし、縦の接続と横の連携を図りながら、開かれた学校づくりを行う

4. 具現の基盤をなす7プロジェクト

五ヶ年計画
二年目

生きる力



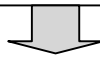
確かな学力プロジェクト
豊かな心プロジェクト
健やかな体プロジェクト

戸隠を愛するプロジェクト
縦の接続プロジェクト
横の連携プロジェクト
開かれた学校プロジェクト

5. 昨年度の課題と本年度の重点

学校評価・アンケートから捉えた課題（21年度～）

- ・学習意欲が高まる授業の工夫や家庭学習への支援を
- ・学力の向上と個別支援を
- ・人間関係の調整力といじめのない集団づくりを
- ・生徒、保護者にとって相談しやすい状況を
- ・情報発信と意見を聞く場の設定を



本年度の重点

- ・個の達成状況を明らかにし、個別支援の具体的な方策に取り組む。
- ・生徒の実態を踏まえた学習支援のあり方を検討し、学力向上を図る。
- ・体験を通して、どんな力をつけていくのかを明確にし、自己肯定感が持てる活動場面を設定する。
- ・固定化集団での人間関係づくりや、個に対する支援の共有化を図る。
- ・年度途中で指導の改善が図れる学校自己評価に改編する。

6. 評価推進計画

- 5月 プロジェクト活動計画および学校評価計画の審議
- 7月 前期保護者アンケート実施
1学期生徒授業評価実施
- 8月 前期保護者アンケートの結果分析と改善策の審議
- 9月 1学期生徒授業評価の結果分析と対応策の審議
(10月 市教委学校評価アンケートの実施 3月 本校の自己評価を加味し、市教委へ報告)
- 12月 後期保護者アンケート実施 2学期生徒授業評価実施 職員学校自己評価の実施
- 1月 学校自己評価、授業評価、保護者アンケートの結果分析と改善策の審議
学校自己評価書を青少年育成委員に送付
- 2月 青少年育成委員会での学校関係者評価の実施
- 3月 3学期生徒授業評価実施 学校自己評価報告書の作成、保護者及び関係各所への送付

7. 本年度自己評価表 (◎は本年度の重点)

A (十分達成) B (概ね達成) C (やや不十分) D (不十分)

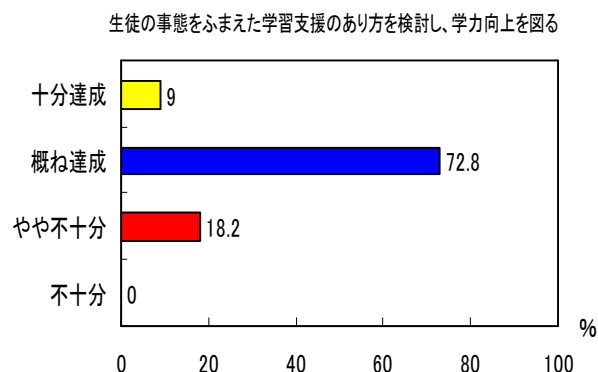
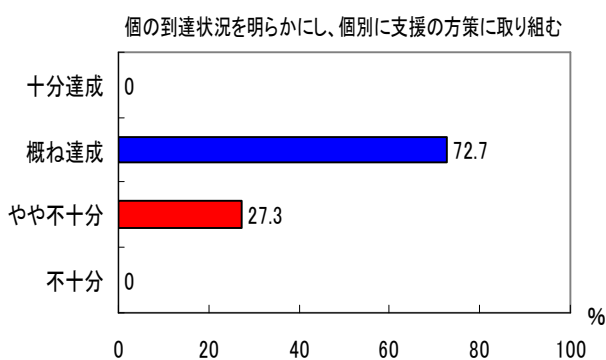
| 最終年度到達目標 | 具体目標 | 具現の方策・取り組み | 生徒の姿 | 評価 | 改善の方策 |
|--|--|--|--|-----------|--|
| <p><確かな学力P> 自ら気づき、考え、自発的に学んでいく生徒</p> | <p>◎個の達成状況を明らかにし、個別の支援の具体的な方策に取り組む。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 授業のねらいを明確に提示し単元の終わりには、自分の姿を振り返り、達成感を味わうことができるようにする。 振り返り(単元テスト等)の中で、自分の弱点に気づけるようにし、個に応じた支援を用意する。 反復(ドリル)学習の場を設け、基礎の定着を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ねらいにそって自己の能力を高めようとする。 達成した喜びを感じ、さらに意欲的に取り組もうとする。 | A 0 | <ul style="list-style-type: none"> 個の支援体制を明らかにし、個別の支援を行う。 |
| | | | | B 72.7 | |
| | <p>◎生徒の実態をふまえた学習支援のあり方を検討し、学力向上を図る。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 定期テスト前に学力支援を行う場を設け、基礎の定着を図る。 NRTや単元テスト、定期テスト、学習プリントの結果から生徒の実態を把握し、授業の内容や教材の提示の仕方について改善していく。 生徒の学力を高めたり、自ら進んで学んだりするような授業づくりをめざして、公開授業を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の今の段階を理解し、目標を達成するためにはどうしたらよいか具体的に行動(質問をしたり補充学習をしたり)できる。 | A 9 | <ul style="list-style-type: none"> 学力支援の方法や家庭学習のあり方を再吟味し、学力向上を推進する。 |
| | | | | B 71.8 | |
| | <p>◎健康食育年間計画推進と検討を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校との連携 各教科との連携 健康教育指導の生徒評価の検討 | <ul style="list-style-type: none"> 小学校と今後の連携について検討する会をもつ 各教科の主任に聞きながら一覧表を作成 指導後の生徒評価を実施(食育・性教育・歯科指導) 生徒会活動の生徒の自己評価実施 食事作り・試食会評価実施 | <ul style="list-style-type: none"> 段階を経た指導を受けることにより、見通しを持った学習ができる 指導内容と生徒の実態の検討をすることで、内容の精選ができ、意欲的な学習になる。 | A 0 | <ul style="list-style-type: none"> 指導内容の体系化を進め、指導計画を作成する。 |
| | | | | B 72.7 | |
| | <p>◎体験を通して、自己肯定感が持てる場面の設定。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 1学年の学級づくり 2学年の職場体験学習 3学年の進路実現学習 学級の係分担を明示し、学校生活で役割を果たし、集団への所属感を高める指導を行う。 幼児、高齢者、障害を持った方への理解を深め、交流の中で自己の関わりの必要感や責任感を味わう。 職場体験学習を通じて、自己の進路の道筋を考え、働くことのすばらしさを体感する 社会の中で積極的に生きる自己を目指す進路学習を行う | <ul style="list-style-type: none"> 学級の中に、自分の役割があり、責任を果たしていく。 事前学習を生かした保育園訪問、豊岡荘訪問、福祉体験、職場体験ができる。 卒業後の進路に向けて、自己実現に努める。 | A 9 | <ul style="list-style-type: none"> 体験学習や道徳進路等の関連を吟味し、キャリア教育に位置づける。 |
| | | | | B 63.7 | |
| | | | | C 27.3 | |
| | | | | D 0 | |

| 最終年度到達目標 | プロジェクトの重点 | 具現の方策・取り組み | 生徒の姿 | 評価 | 改善の方策 |
|---|--|---|---|--|---|
| 地域の内外で広く、深く人間関係を築く力を身につける | ○つける力を吟味した道徳指導計画や実践記録を作成する。 | ・構成的エンカウンターも活用 ・Q-U検査の検証を行い学級経営や生徒指導に生かす。 (職員会での共通理解) ・学級の実態に応じて「主として他の人との関わりに関すること」の道徳授業を展開し、年間の指導記録として残す。 | ・友だちからの温かな支えを感じられる。 ・他の人との関わりについて考えられる。 | A 0 B 36.3 C 63.7 D 0 | ・体験を通して、肯定的な自己理解と自己有用感の獲得を図る。 |
| <戸隠を愛するp> 戸隠の自然や文化、人々との関わりを通して、地域が分かり、地域のよを発見するふるさと教育の推進 | ○戸隠で学ぶ教材を精査し指導計画を作成する。 | ・地域の人との関わりを通して、自己の生き方を問う域内職場体験学習を実施する。 ・ふるさと学習としての体験学習の充実を図る。 地域清掃(1年) 小鳥の巣箱かけ(2年) 炭焼き(3年) 豊岡荘訪問(各部活) 紫峰祭での発表 ・1. 2年宿泊行事の検討 | ・地域の人々の生き様にふれ、自己の生き方や戸隠のよさについて、まとめることができる。 ・体験学習の中で自分を発揮し、意欲的に取り組むことができる。 | A 9 B 63.7 C 27.3 D 0 | ・心の醸成を踏まえ、道徳や進路指導と関連づけたキャリア教育の指導計画を作成する。 |
| | ○地域活動のバンクを図り参加を呼びかける。 | ・地域の活動や行事を集約し積極的な参加が可能になるよう体制を整える。 | ・地域の人とふれあうことを通じて地域の一員としての自分を実感する | A 0 B 72.7 C 27.3 D 0 | ・戸隠カレンダーにもとづく地域行事への参加や地域貢献の体制整備を図る。 |
| <縦の接続P> 児童生徒を共通理解し、小中で連携しながら、健全な人間関係を構築する。 | ◎固定化集団での人間関係づくりや、個に対する支援の共有化を図る。 | ・全職員参加の拡大中連絡会を開催し、新学生について共通理解を図る。 ・行事や教科等のカリキュラム確認と個の支援についての共通理解を図る。 ・小6生の授業参観と入学説明会での体験授業を行う。 ・校内の相談体制について、生徒保護者に周知する | ・学級内で居場所があり、学校生活に適應できる。 ・自分の思いや悩みを友人や職員に自己開示できる。 | A 0 B 45.5 C 54.5 D 0 | ・小中の連携として実施すべきことを決め出し計画的に実施する。 ・生徒のつぶやきや申し出に気を配り、初期対応をていねいに行う。 |
| <横の連携P> 戸隠地区の将来を担う、戸隠を愛する子どもを育成するために家庭や地域と連携して、戸隠の自然や文化、そして、人との深いかかわりから学ぶ教育を推進する学校 | ○「青少年育成委員会において、地域への提案を含めた連携体制の整備を推進する。 | ○青少年育成委員会(年4回) ・「戸隠教育」計画の審議 ・地区懇談会の見直し ・地域人材バンク、学校ボランティアの募集 ・子ども安全パトロールの実施 ・地区育成行事の実施 ・学校関係者評価の実施(年3回) ・戸隠教育計画作成小委員会(年3回) ・「戸隠教育」計画の原案作成 ○青少年健全育成大会の実施 | ・戸隠の自然や文化、そして、人とかかわり学ぼうとする意欲が生まれる。〔生徒〕 ・地域に関心を持ち、地域の行事や活動にも参加しようとする。〔生徒〕 ・地域の子は地域で育てようという意識が芽生える ・学校教育に関心を持ち、協力しようとする意識を持つ〔地域住民〕 | A 0 B 72.7 C 27.3 D 0 | ・青少年育成委員会を中心に学校、地域、家庭が担うことを精査し、「戸隠教育」の作成を推進する。 |

| 最終年度到達目標 | プロジェクトの重点 | 具現の方策・取り組み | 生徒の姿 | 評価 | 改善の方策 |
|--|--|--|---|-----------|--|
| <p><開かれた学校P> 学校評価の共通理解に立ち、学校、保護者、地域が連携して生徒を育てる開かれた学校</p> | <p>◎年度途中で指導の改善が図れる学校自己評価に改編する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 重点目標と具体策を取り入れた評価表を策定する。 保護者の中間アンケートを実施し課題の改善策を提案する。 各教科の学習進度表を配布し、学期ごとに進度を確認する。 授業評価の検討会を持つ。 学校関係者評価にむけた提案内容の検討と評価書を作成する | <ul style="list-style-type: none"> 保護者の中間アンケートの結果や授業評価から課題を自覚し、解決に向けて教師と共に取り組む。 授業進度について、不安なく学習を進める。 | A 9 | <ul style="list-style-type: none"> 年度途中の改善に対しても、職員が同一歩調で取り組む。 |
| | | | | B 72.8 | |
| | | | | C 18.2 | |
| | | | | D 0 | |
| <p>職員提案でよりよい運営改善がなされる開かれた学校</p> | <p>○地域、保護者への情報発信と意見交換の場を設定する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 学校への意見要望を受け取る機会を増やす P T A五役会と情報共有（年7回）をし、保護者の思い等を把握する 自由授業参観を保護者に周知する ホームページを定期更新する | <ul style="list-style-type: none"> 学校への意見・要望を伝える機会が増えた実感する [保護者] 学校の取り組みがよく分かると実感する。 [保護者] | A 9 | <ul style="list-style-type: none"> 学年だよりの内容の充実を図るとともに保護者の意見を集約する |
| | | | | B 62.7 | |
| | | | | C 27.3 | |
| | | | | D 0 | |
| <p>職員提案でよりよい運営改善がなされる開かれた学校</p> | <p>○職員、生徒がよりよい学校生活ができるという視点で、意見を求める。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 学期に一度、運営に係る意見を集約する（生徒の実情も考慮し、職員が改善点を提出する） 運営に係る改善策を検討し、職員会に提案する 生徒会を中心に新しい活動の創造や伝統の深化を図る | <ul style="list-style-type: none"> 「日頃、感じている問題点」や「オヤッ」と感じたことが学校運営に反映される。 [職員] 生徒自身で創った活動が学校生活に生かされる。 生徒の活動に職員が協力する活動が生まれる [職員] | A 0 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒が創る学校づくりのあり方を提示し、生徒の活動の一般化を図る。 |
| | | | | B 63.6 | |
| | | | | C 36.4 | |
| | | | | D 0 | |

8. 学校自己評価結果の分析と改善の方向

(1) <確かな学力プロジェクト>



①分析と考察

- ・「個の到達状況を明らかにし、個別の支援の方策に取り組む」では、7割が概ね達成と回答しているが約3割りはやや不十分と回答しており、個別支援の時間の位置づけ等検討していく必要がある。
- ・「生徒の実態をふまえた学習支援のあり方を検討し、学力向上を図る」については、約8割がプラスの評価をしている。しかし、支援日での支援の仕方や家庭学習の内容については再検討していく必要がある。

②次年度の向けての改善策

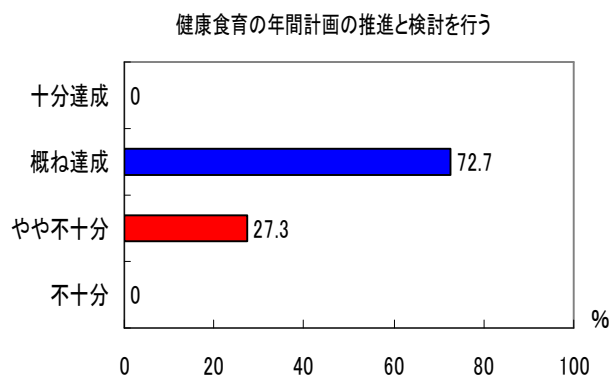
○個の支援体制を明らかにし、個別の支援を行う。

- ・ T T 教科を拡大する。
- ・ 個別支援の日を設ける。
- ・ 授業での習熟度学習の推進

○学力支援の方法や家庭学習のあり方を再吟味し、学力向上を推進する。

- ・ 学力向上支援日の安定確保と内容の充実
- ・ 家庭学習の内容及び評価の検討実施
- ・ 相互参観旬間を設け、学力向上に向けた授業改善を行う

(2) <健やかな体プロジェクト>



①分析と考察

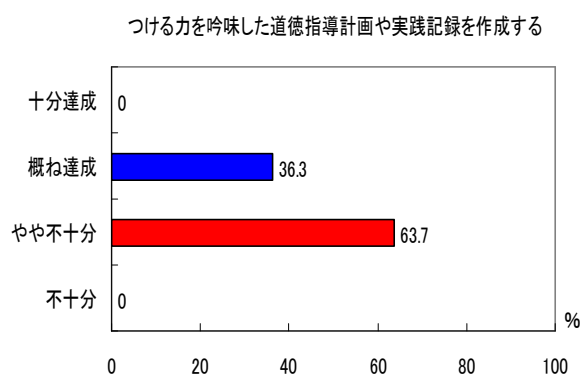
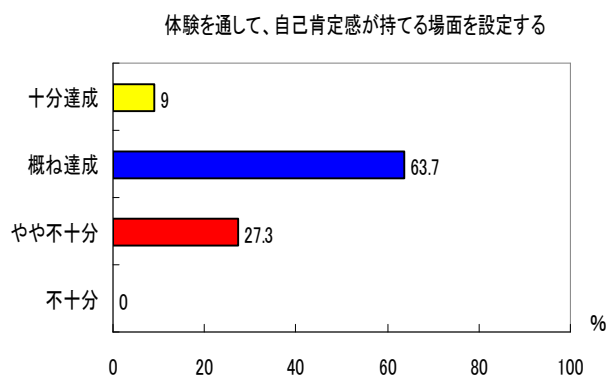
- ・「健康食育の年間計画の推進と検討を行う」については8割がプラスの評価をしている。次年度も継続していきたい。

②次年度の向けての改善策

○指導内容の体系化を進め、指導計画を作成する。

- ・ 本校独自の指導計画の完成
- ・ 健康食育における家庭との連携を図る
- ・ 衛生委員の活動の充実とその自己評価の実施

(3) <豊かな心プロジェクト>



①分析と考察

- ・「体験を通して、自己肯定感が持てる場面を設定する」については、7割りがプラス評価をしているが、3割がやや不十分と回答している。体験学習については、計画通りが実施できたが、学年間の関連づけや心の醸成という面で課題が残った。
- ・「つける力を吟味した道徳指導計画や実践記録を作成する」については、6割強がマイナスの評価であった。学年によって、扱いに差が出たことや記録の集積が不十分であった。

②次年度の向けての改善策

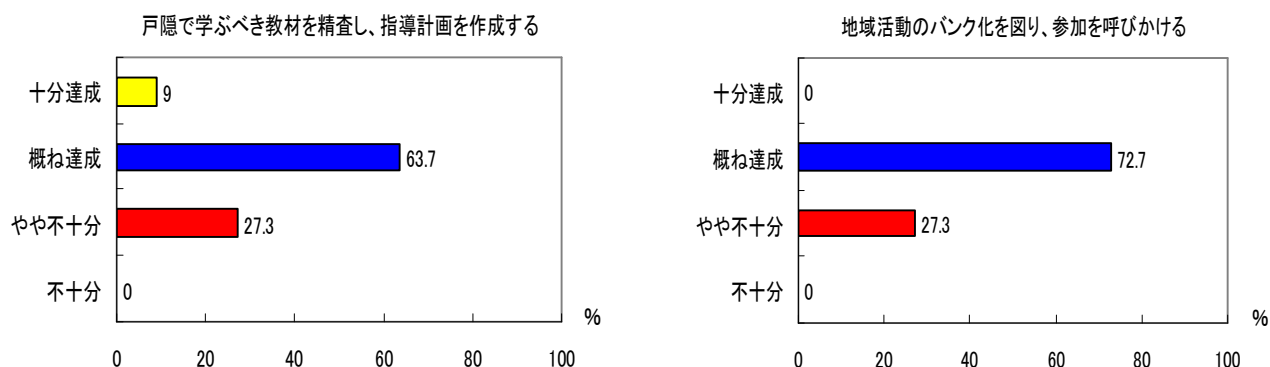
○体験学習や道徳、進路等の関連を吟味し、キャリア教育に位置づける。

- ・戸隠を愛するプロジェクトとの連携又は統合
- ・人間関係力に視点をあてたスキル学習の実践
- ・進路学習や体験活動と関連づけた教材の開発。

○体験学習との関わりの中で、肯定的な自己理解と自己有用感の獲得を図る。

- ・自己肯定感や自己有用感に係わる道徳指導の実施
- ・道徳実践記録の集積

(4) <戸隠を愛するプロジェクト>



①分析と考察

- ・「戸隠で学ぶべき教材を精査し、指導計画を作成する」については、約7割りがプラス評価をしており、各学年の体験学習は充実した活動が展開された。しかし、どれも単発的な活動という感があり3割のやや不十分につながったと思われる。
- ・「地域活動のバンク化を図り、参加を呼びかける」については、約3割がマイナスの評価であった。バンク化を地域で進めるのか学校で行うのか迷いが回答につながったと思われる。地域行事には、多くの生徒が参加した。

②次年度の向けての改善策

○心の醸成を踏まえ、道徳や進路指導と関連づけたキャリア教育の指導計画を作成する。

- ・キャリア教育のグランドデザインの作成
- ・学年の行事と体験学習の見直し
- ・総合的な学習の時間の割り振り

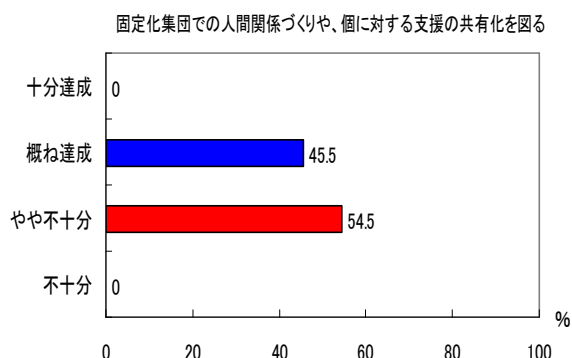
○戸隠カレンダーに基づく地域行事への参加や地域貢献の体制整備を図る。

- ・地域ボランティア活動への参加
- ・地域カルチャー講座でのスタッフ参加
- ・地域行事への参加体制の確立

(5) <縦の接続プロジェクト>

①分析と考察

- ・「固定化集団での人間関係づくりや、個に対する支援の共通化を図る」については、約6割がやや不十分としている。児童生徒の小中での共通理解という点で課題が残ったことや、個に対する支援の具体が全体に見えていなかったことがあげられる。



②次年度の向けての改善策

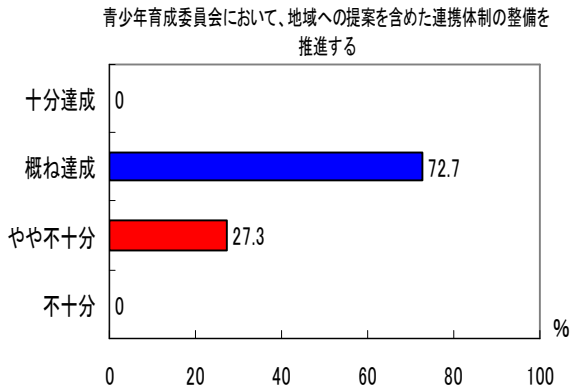
○小中の連携として実施すべきことを決め出し計画的に実施する。

- ・小学校との支援計画のすり合わせ
- ・小中合同研修会の実施

○生徒のつぶやきや申し出に気を配り、初期対応をていねいに行う。

- ・対応や支援における共通理解資料の提示
- ・校内相談体制の全校周知

(6) <横の連携プロジェクト>



①分析と考察

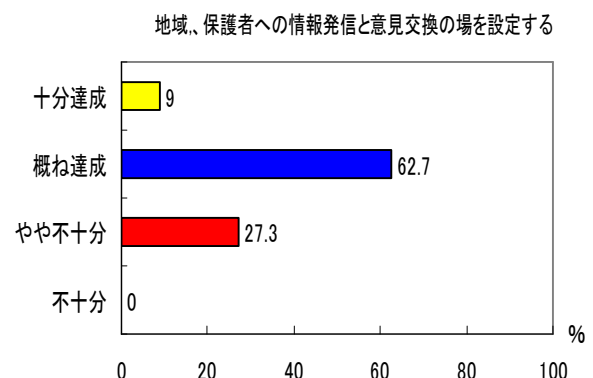
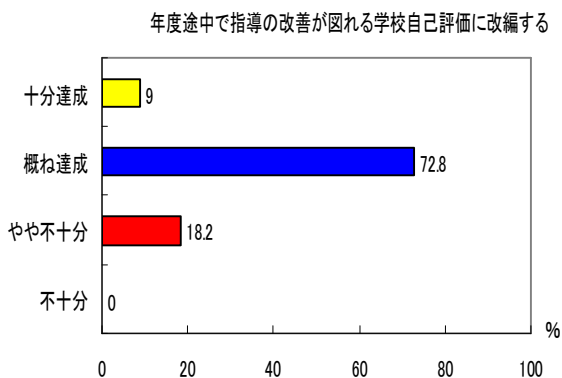
・「青少年育成委員会において、地域への提案を含めた連携体制の整備を推進する」については、7割がプラスの評価をしている。地域への提案の流れができてきている。

②次年度の向けての改善策

○青少年育成委員会を中心に学校、地域、家庭が担うことを精査し「戸隠教育」の作成を推進する。

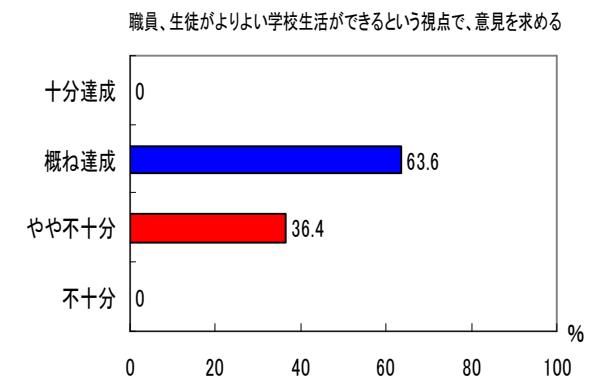
- ・地域、学校、家庭等 活動の主体の明確化
- ・「戸隠教育」の骨子完成

(7) <開かれた学校プロジェクト>



①分析と考察

- ・「年度途中で指導の改善が図れる学校評価に改編する」については、約8割がプラスの評価をしており、評価のあり方の骨子は概ねできた。
- ・「地域、保護者への情報発信と意見交換の場を設定する」については、約7割のプラス評価はあるが、約3割りはやや不十分と回答しており、意見交換のあり方については検討していく必要がある。
- ・「職員、生徒がよりよい学校生活ができるようにという視点で意見を求める」については、約4割が不十分と回答している。生徒会を中心に新しい活動の創造や伝統の深化という点での活動がもう一步であった。



②次年度の向けての改善策

○生徒が創る学校づくりのあり方を提示し、生徒の活動の一般化を図る。

- ・生徒提案の活動の充実
- ・生徒の活動による伝統の深化

○学年だよりの内容の充実を図るとともに保護者の意見を集約する

- ・学年での取り組みや指導についての広報
- ・ホームページの内容充実

○年度途中の改善に対しても、職員が同一歩調で取り組む。

- ・係提案の審議と共通理解、進捗状況の把握

9 学校関係者評価のまとめ

<成果>

- 生徒数が減少していく中で、プロジェクトを立ち上げて、地域で戸隠の子どもを育てていくという事は大事である。戸隠を愛するプロジェクトで、ぜひ、郷土愛を育てていきたい。
- 学力向上や個別支援に取り組んでもらえてありがたい。生徒にとってよい成果につながっていくことを期待したい。
- 学校評価を生かした取り組みができていた。重点活動についても引き続き取り組んでいきたい。
- 青少年育成委員会ができ、学校と地域の横の連携が出来てきた。学校が担うこと、地域が担うことが明確になりつつある。
- 学校から地域への積極的な働きかけが出来始めたので、是非継続したい。

<課題>

- 不十分の項目がなかったものの、やや不十分の項目が多いのは残念。また、十分達成の数値が低いのも同様。概ね達成で満足してはならない。
- 重点の決め出し、全職員で共通認識立って取り組んでいる。ただ、地域や保護者には、まだ、十分に取り組みが周知されていない面がある。次年度、周知したい。
- 先生方と保護者が本音で話す機会が少ないように思う。PTAの組織のあり方を含め、学校に足を運ぶ機会を増やすことが大事である。
- 市のアンケート、学校のアンケートがあり分かりづらい。アンケートも必要であるが、保護者とじっくり話す場を設けていくことが大事。
- 評価書はよくできているが、実態はどうか。教師と保護者、地域で協議する場があるとよい。

<要望>

- ・観光イベントなど、大人が地域で頑張っている姿をみるという意味でも、休日の中学生のボランティア参加をお願いしたい。
- ・先生方や保護者からの事業の計画や要望が出てくるのが望ましい。生徒たちの意見を生かすためにも事業計画にも参加してほしい。
- ・職場体験については、企業だけでなく、高齢化が進んでいる農家への支援も含めて検討していただきたい。
- ・野外体験の場が減っている。地域で子どもの姿が見える機会が減っているので、地域に出る活動を増やしてほしい。
- ・自然を取り入れた教育とスポーツ活動の充実をお願いしたい。また、1年次から右側一列歩行の徹底を。
- ・資源回収での回収の仕方は生徒の自主性の確立の方向で再検討したい。

10 次年度に向けた学校の取り組み

平成22年度 学校自己評価から捉えた課題

- ・家庭学習のあり方を含め、学習指導の充実を
- ・個別指導の時間を確保し、学力の向上を
- ・将来の生き方を見据え、自立していく力の育成を
- ・人との関わり方など、体験学習を通しての心の醸成を
- ・生徒、保護者が相談しやすい学校体制への転換を

平成23年度の重点

- ①個の支援体制を明らかにし、個別の支援を行う。
- ②学力支援の方法や家庭学習のあり方を吟味し、学力向上を推進する。
- ③体験学習や道徳、進路等の関連を図り、キャリア教育を確立する。
- ④人との関わりの中で、肯定的な自己理解と自己有用感の獲得を図る。
- ⑤生徒のつぶやきや申し出に気を配り、初期対応をていねいに行う。
- ⑥生徒が創る学校づくりのあり方を提示し、生徒会活動の充実を図る。

*本年度の学校自己評価結果は以上の通りでありました。1年間のご理解とご協力ありがとうございました。

なお、平成23年度は、左記を重点として、学校目標の具現に向けて取り組んでまいりますので、よろしく願います。